全佛婦

No. 128
2019年新年号
1月1日発行



公益社団法人
全日本仏教婦人連盟

全佛婦128号

平成31年1月1日　**発行日**
広報委員　**編集人**
末廣久美　**発行人**

発行所
公益社団法人　全日本仏教婦人連盟
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷
4-5-10-205

03-5772-0677　**電　話**
http://jbwf.jp//　**URL**
info@jbwf.jp　**MAIL**

本多良之師　**表紙画**



年頭の挨拶

東伏見 具子

2019

Happy New Year!

新年おめでとうございます。

今年は、陛下が退位され、五月一日に新天皇が即位されます。元号も改められ、また翌年にはオリンピックを控え、日本は慌ただしい一年となる事でしょう。皆様も一年のスケジュールは、手帳なりスマホに記入していかれると思います。真っ白だった手帳が、次々と入る予定で埋まっていきます。

昨年を振り返って見ますと、その予定を次から次へとこなしていく事に追われていた気がします。一つの事をやりながらも、頭の中は次にするべき事も考えています。私の小さな頭の中は、目一杯で休む暇もありません。静かな美しい山や海の景色を見ると、心が落ち着き吸い込まれていく自分を感じることができます。今年は、空いたところを埋めるのではなく、ＯＦＦと決めた日を作って、静かに自己をみつめる時間を持とうと思っています。

ブッダがブダガヤの菩提樹の下で、自身の心を胸の想いを歌った一つを紹介します。

⬇足ることを知り、真理（法）を聞き真理を見る者の独居は楽しい

⬇世の人々に対して怒り憎むことなく、生きとし生きるものすべてに対して自制することは楽しい

⬇世間に対する貪り欲望を離れ、諸々の欲望を超えることは楽しい

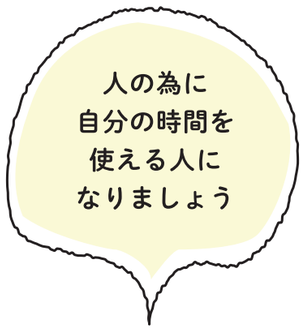
⬇「われが、われが」という慢心に打ち克つことは、けだし最上の楽しみである

⬇自己こそ自分の主である。他人がどうして「自分」の主であろうか。自己をととのえたならば得難きを得る。

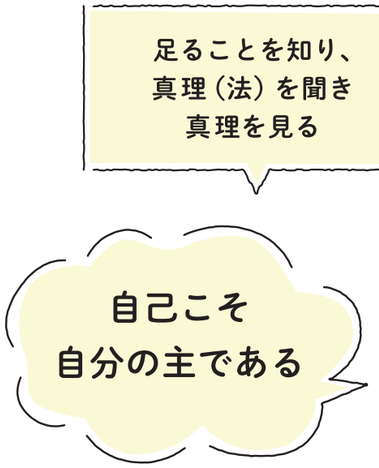
とあります。難しい事ですが、私なりに努力をしていきたいと思います。

過日、日野原重明先生の「明日をつくる十歳のきみへ～一〇三歳の私から～」という本を読みました。十歳に限らず大人の人に是非読んでもらいたい内容でした。「いのちの授業」を通して全国のみならず海外にも出かけられました。いのちとは？それは、「自分が使える時間」の事「ゆるしの心を持つこと」「大人になったら人のために自分の時間を使える人になること」。世界中がこのような人ばかりだと、戦争は起らないでしょう。とおっしゃっています。しかし、実行するのは大変難しい事です。

あるニュースで「大人する」という言葉が流行していて四十代以上の女性の半数近くが「自分の為に時間を使いたい」と思っていると言っていました。残りの人生を楽しく生きたいというのです。その気持ちは理解できますが「自分さえよければ…」ではいけないのです。人の為に自分の時間を使える人になりましょう。この事はＳＤＧｓの活動にも繋がっていると思います。







「忠臣蔵」ではなく「随喜善」の精神が平和をもたらす

日本人が大好きな「忠臣蔵」。

命と引き換えに、主君の恨みを晴らす仇討ちの物語は、毎年12月になるとドラマになったり映画になったり、芝居になったりして好評を博しています。主君のために家臣が長年じっと耐え、一命と引き換えに仇を討つというシチュエーションが、日本人の精神性に合い、強く訴えかけるものがあるのでしょう。

◇◇◇◇◇◆◆◆◇◇◇◇◇

「忠臣蔵」は、今から約300年ほど前の元禄14年に、江戸城・松の廊下で起こった刃傷事件を発端とする史実ですが、これが「仮名手本忠臣蔵」として世に出て以来、人形浄瑠璃として初演されて大当たりをとり、すぐに歌舞伎化されました。以来、日本を代表する芝居の演目となるわけです。

◇◇◇◇◇◆◆◆◇◇◇◇◇

主君である浅野内匠頭の仇討ちによって、大石内蔵助ら赤穂浪士たちは英雄となったわけですが、これを仏教の教えに照らしてみると、少々違った見方ができます。繰り返し申し上げている通り、仏教では「赦すことで恨みは消える」と考えるので、大石内蔵助たちは吉良上野介を赦さなければならなかったのです。

日本が第二次世界大戦で負けたとき、中国の蒋介石総統は「怨みに報いるに徳をもってす」という有名な言葉とともに、日本に対する賠償請求権を放棄しました。次の政権の毛沢東氏や周恩来氏もそれを継承し、日本への報復（仇討ち）をしないで赦したのです。その行いは、他の戦勝国による莫大な請求に歯止めをかけることにもつながり、日本は驚異的なスピードで戦後の復興を果たすことになるのです。

一方、中東では、今もパレスチナとイスラエルは血で血を洗う戦いを繰り返しています。お互いにどうしても譲れない背景があったとしても、この戦いによって両方の国民は物心の両面で苦しみにあえいでいます。この現状こそ『やられたらやり返す』という仇討ちの精神が、いかに不毛であるかをまざまざと物語っていると思います。

◇◇◇◇◇◆◆◆◇◇◇◇◇

仏教には「随喜善」という言葉があります。これは他人の喜びを自分の喜びにするという意味です。

お釈迦様が、思いやりの心の章でお話しした「無財の七施」について説かれた際にお使いになった言葉で「自らが善行を行うだけでなく、他人の善行や喜ぶ様子を見て、わが喜びとすることもまた、徳を積むことになる」という意味です。他人の喜びを、自分の喜びとできるなら、不毛な仇討ちや仕返し合戦が起こることもありません。

◇◇◇◇◇◆◆◆◇◇◇◇◇

これからは「忠臣蔵」を見たり聞いたりするたびに、忠臣蔵は私たちの反面教師であると心を戒め、「随喜善」という仏教の教えを思い起こしてください。相手を赦し、相手の幸福をわがこととして喜ぶことができさえすれば、世界平和は必ず訪れます。



仇討ちや仕返しの精神を捨て、赦しと随喜善の精神で幸せを手に入れましょう。

仇討ちや仕返しの精神ではなく、赦しと随喜善の精神で幸せになりましょう。

安田暎胤著
『生きる幸せに気づく五つの心』
（主婦と生活社刊）より

【安田暎胤師】昭和13年岐阜市生まれ。昭和25年12歳で出家し、薬師寺に入山。橋本凝胤師の薫陶を受ける。昭和37年龍谷大学大学院修士課程修了。昭和38年宗教者平和使節団員としてローマ法王との謁見を始めヨーロッパ各地の宗教者と懇談。昭和39年名古屋大学学術調査隊員としてアフガニスタンを踏査。昭和42年薬師寺執事長就任。平成10年に薬師寺副住職、平成15年、薬師寺管主となり、現在は薬師寺長老。公益財団法人国際仏教興隆協会前理事長。

ほとけさまのサイン Sign



図1



大仏師　山高龍雲

病気は引き受けた

皆さん、天台宗の総本山である比叡山延暦寺の根本中堂のご本尊さまが、お薬師さま（薬師如来）であることは、もうごぞんじですよね。

それでは、このお山をお開きになった伝教大師最澄さまが自らお刻みになったこのお薬師さまとは、いったいどんな仏さまなのでしょうか？

図1は、お立ちになっているお薬師さまです。ご覧の通り、お釈迦さまをはじめとする如来さまに共通した「如来の通印」＝施無畏と与願の印（両手の指をひろげて、右手を胸の辺りに、左手を腰の辺りに置く）の内、左手をあげて指を少し折り曲げ、その手のひらに薬つぼをお持ちになっておられます。

そうです。お薬師さまのお手の形は、「従来の通印」から変化したものなのです。

そして、お薬師さまが、その左手に薬つぼをお持ちになっておられるのは、私たちの心身の病を治してあげようという、お薬師さまのお心のあらわれなのです。（図2）

『薬師経』というお経の中には、お薬師さまがおたてになった十二の大きな願いの一つとして、どんなに困難な時でも、私たちの「衆の病を悉く除き、身心を安楽にして」下さると説かれています。正にお薬師さまは大変な名医なのです。昔からお薬師さまを医王如来ともおよびするのは、こうしたわけなのです。

ですから、お手にお持ちの薬つぼは、こうしたメッセージを、私たちに語りかけて下さるためのサインだったわけです。そして、ここでいう衆の病とは身体の病だけでなく、当然のことながら、心の病も含まれているのです。

ところで、お薬師さまには、日光、月光と呼ばれる両菩薩や十二神将と呼ばれる武装神が一緒に祀られていることがあります。

この内、日光、月光の両菩薩は太陽と月の象徴で、現実の世の中を現しているといわれます。また、十二神将は、お薬師さまの十二の大願や後には十二支とも結びついて祀られていますが、この十二人の武神のお仕事は、お薬師さまを信仰する私たちを励まし、お守り下さることなのです。こうしたことから、お薬師さまは現世利益の仏さまと言われています。現在この世に生きている私たちの病を治し、幸福を与え、やがてはこの世の中全体を幸福にしようというのが、お薬師さまの願いなのです。

「日本仏教の母山」と言われる比叡山の、ご本尊さまとして、最澄さまが特にこのお薬師さまをお迎えになったことの重みをひしひしと感じます。

仏さまのまなざし

ところで、仏さまはいったいどこをご覧になっていらっしゃるのでしょうか。仏さまにおまいりなさる時には、ぜひ気をつけてみていただきたいのです。

実は仏さまのまなざし（視線）は、おまいりしている私たちに向けられているのです。私たちが、お堂の決められた位置に坐って、仏さまを仰ぎ見ると、なんと仏さまも私たちを見守って下さっているのです。このように、両方の視線が一致するのには、こんなわけがあります。少なくとも、昔の仏師さんたちは、自分が彫らせていただいている仏さま（本当にそういう気持ちで彫ったのです）が、どういうお寺の、どんなお堂のどんなところにお祀りされるかをよくわきまえて仕事にかかったのです。ですから、視線が一致するのはごく当たり前のことなのです。

ついでですが、大きなお堂の高い檀の上に祀られている仏さまの後ろにある円光背の円が、近づいてみると、やや縦長の楕円形をしていることがあります。実はこれは私たちが決められた位置に坐って拝んだときに正円に見えるように考えられているのです。

このように、昔のすぐれた仏師さんたちは、私たちがおまいりする時に、どうやったら仏さまの円満なお姿とお心を、私たちに伝えられるかと、いろいろと心配りをしたのです。そんな気持ちのこもった仏さまに向えば、自然と手が合わさって、心から拝みたくなるわけです。

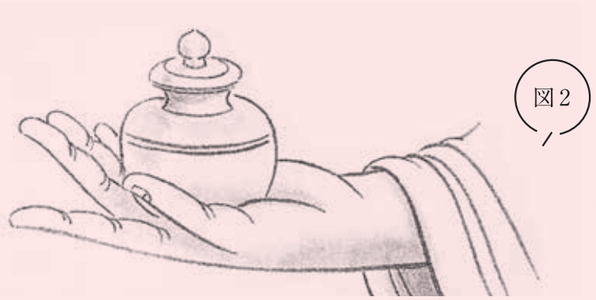


図2

著者略歴
【浦井正明】

昭和12年東京生まれ。東叡山寛永寺長臈。天台宗僧侶。慶應義塾大学文学部史学科卒業。東叡山現龍院前住職。寛永寺執事長、台東区教育委員会委員長、台東区文化財保護審議会委員等を歴任。『もうひとつの徳川物語 将軍家霊廟の謎』等著書多数。

「ほとけさまのサイン」
編集・発行　天台宗出版室

浦井正明師；「阿弥陀様はなぜ九ツもの印相を示しておられるのか。お不動さまはどうして怖いお顔をして、剣などをお持ちなのか。本書はこうした疑問にお答えするために書いたものである。（中略）仏さまは本来拝まれるために造られるのである。いいかえれば、私たちが仏さまに何を願い、仏さまはそれにどう応えてくださるのかということなのである。」

第65回

公益
社団法人

全日本仏教婦人連盟大会

第65回全日本仏教婦人連盟大会が10月10日（水）台東区の東天紅上野店にて、関連団体等、仏教界のご来賓ほか約百余名の参加を得て開催されました。



始めに、今年ご遷化された稲山霊芳副会長並びに小峰喜和子参与の追悼会を全日本仏教尼僧法団笹川悦導理事長大導師のもと厳修いたしました。参加者の献花の後、笹川理事長より「近年は、次々とやってくる災害の多くの犠牲者や児童の虐待、自死などの悲しい事件が相次ぎ、心が痛みます。ＩＴ・ＡＩの技術の進歩がめまぐるしく時代を変えておりますが、人間と機械のつながりではなく人と人とのぬくもりの通う関係社会を築かねばと思います」と、お言葉をいただきました。

続いて念法眞教信徒の、故稲山霊芳副会長が作詞・作曲・振付された御詠歌舞と、密厳流遍照講總持寺支部の「同行二人の御詠歌」と「追善供養和讃」が奉詠されました。演者の皆さまの美しく凛とした舞姿と詠唱に、舞台のお写真のお二人もさぞお喜びになられたことと思います。念法眞教一宮良範教務総長、總持寺小峰立丸住職には、御礼のご挨拶をいただき、追悼会は哀悼の意に包まれながら、亡きお二人を偲び、感謝にあふれるひとときとなりました。



引き続き東伏見会長は「現在、国連が提唱している〝ＳＤＧｓ〟は持続可能の開発目標を意味し、環境や開発に関する２０３０年までに達成すべき、17の目標のことで、全仏婦のインドの施療院、東北の被災高校生の支援などの活動も17の目標に当てはまっています。」と挨拶をされ、続いて（公財）全日本仏教会の釜田隆文理事長に「貴連盟は、発足以来宗教、文化、言語等様々な違いを超えて仏教精神の実現をめざし国内外の福祉向上に貢献されておられます。具体的には写経運動や心の募金運動などの活動を通じて国際的な人道支援あるいは青少年の情操教育に対し積極的に活動をされておられ、またさまざまな研修会などを実施され、普段の研鑽を継続される姿勢には深く感銘を受けるところであります。全日本仏教会は１０５の団体が加盟する組織で、昨年は財団創立60周年記念大会を迎え、本年は記念事業の一環としてアジア圏を中心に５００名余りが参加する第29回ＷＦＢ世界仏教徒会議日本大会を、千葉県成田市において11月５日より８日まで、さらに11月９日には横浜市にあります曹洞宗大本山總持寺において世界恒久平和祈願法要を営む予定です。」と祝辞をいただきました。

休憩後、岡野鄰子相談役から「諸行無常、それは私たちは生きているがいつかは消滅するという事と、そしてその人間のしたことは必ずその結果を伴うという仏教またそういう精神面を言っており、社会や文化の中で浸透させてきました。連盟の副会長をなさいました稲山霊芳先生そして参与をお務めしてこられた小峰喜和子様は本当に立派なご一生を遂げられたと思っております。ご遺徳を心から讃えて遺されたご精神を仏教徒として受け止めながら活動させて頂きましょう。」と、献杯のご発声をいただきました。続いて（公財）国際仏教興隆協会の中村康雅理事長にインドの子どもたちのための事業に４００万円の目録及び（公財）全国青少年教化協議会の神仁主幹に里親資金今年度分36万円の贈呈をしました。



中村理事長は「インドは現在は目覚ましく発展しておりますが、それに伴い貨幣の価値も医療に対する法律も大きく変わり、今までどうりの活動が出来なくなってきているのが現実です。その中でまだまだ毎日の食の不足はもちろん、不衛生な中での生活をしているブダガヤの子どもたちに、何か役に立つ方法はないものかと、貴連盟と日本仏教保育協会の皆さまとで検討を重ねてきました。これからは子どもたちの建康を願い、保健衛生また防疫等の教育などの活動を進めていきたいと思っております。」と抱負を語られました。また神主幹からは「全日仏婦とインドの子どもたちの支援をはじめたのは、国際ボランティア年が契機で、その折にぴっぱら児童基金という任意のグループを作り、カルカッタ、ベナレス、サルナートそしてラダックの子どもたちに奨学金を供与して参りました。これまで18年間活動を続けてまいり、奨学生の人数も延べ千人を超えております。まだまだ貧困の連鎖から抜け出ていない子どもたちも大勢います。また、インドのみならず、東日本大震災発生以後は東北の被災地の貧困の状態にある子どもたちに返還不要の奨学金も供与しております。年間４００名毎月１万円の返還不要の奨学金を供与しております。」とインドの現状報告と、全仏婦が現在も協力している〝あおぞら奨学基金〟の報告をいただきました。

ご来賓の東京都仏教連合会新倉典生事務局長から12月10日有楽町朝日ホールにて開かれる第30回成道会の集いのご案内と、ＮＧＯ協働センター村井雅清顧問からは、〝まけないぞう〟の報告と災害ボランティア支援の現況の報告がされ、静岡県仏教婦人会松永郁代会長からは、来たる11月７日開催の60周年記念大会の概要を説明していただきました。仏婦の歌を全員で合唱し、最後に末廣理事長が謝辞を述べ、閉会となりました。

恒例になりました会場での募金は１５４，１００円となり、北海道胆振東部地震の救援資金として連盟の支援金と合わせて20万円を（公財）全日本仏教会に贈呈いたしましたことをご報告いたします。

稲山霊芳副会長・小峰喜和子参与追悼会

稲山霊芳副会長



昭和48年、宗派を超えて日本の仏教界が、インドのブダガヤに日本寺を建立しました。昭和56年その日本寺境内に無料の医療施設「光明施療院」を建設することが計画され、全日本仏教婦人代表委員会が結成されました。40年も前のことで、大変に困難な道のりではありましたが、稲山副会長さまには、信州善光寺大本願法主一條智光台下と参議院議員でもある全日仏婦の山本スギ初代理事長とともに、結成委員として、また医学博士としても偉大な事業成就への道筋をお示してくださいました。その後平成17年には念法眞教のご燈主をおつとめの傍、私たち連盟の副会長にご就任なさいました。稲山副会長さまの人々を思う気高い御心は、私たち仏婦の活動の基本的な姿勢、精神となっております。

小峰喜和子参与

平成10年に理事にご就任されて以来、公益法人として評価された連盟の活動に大変にご貢献をいただきました。喜和子さまの溌溂としてしかも寛容な、慈悲に溢れた笑顔と実行力は私たちの心にいつまでも残ります。事業に行き詰ったときは「わかった」の喜和子さまの一言で解決をいたしておりました。

福祉の象徴、「まけないぞう」を、平成16年の中越地震の被災者支援につなげるため、極寒の被災地山古志村に、代表として訪問され、「まけないぞう」は一本のタオル運動として被災地ＮＧＯ協働センターとの共同の事業として確立し、東日本大震災の被災者にも大変に励みになっています。

遠藤実先生をはじめたくさんの講演の講師のご紹介をいただき、大好評を得てチャリティーコンサートにまで発展し、その収益を福祉事業の充実に充てることもできるようになりました。





10月17日（水）、
私達会員10名は仙台駅からマイクロバに揺られながら、
宮城県石巻市牡鹿半島の「小竹浜（こたけはま）」に
到着しました。今回で七回目を迎える
東日本大震災被災地訪問のためです。



宮城県石巻市

今年も

小竹浜の集会所に行って来ました!



集会所には笑顔がいっぱい

被災地の集会所には、一年ぶりの再会を楽しみにされている皆さんの笑顔がありました。まず町内会長様から温かい歓迎のお言葉を頂戴し、続いて松井常務理事から、一層の交流を深めていきたい由の挨拶がありました。

皆さんがご用意下さった郷土料理を囲み会話が弾んだ後、午後は被災された方々やご先祖様への供養にと、参加者全員で心をこめて写仏をさせて頂きました。真剣な顔つきの五歳の男児がお地蔵様を描き終えた時、会場に大きな拍手が沸き起こったことは忘れられません。帰途につく際、皆さんが笑顔で「私達のことを忘れず、来年も又必ず来て下さいね」と言って下さり、お互いしっかりと握手をして別れを惜しみました。

私は今回の訪問が初めてです。会員たちが仏婦の精神でもある「心のふれあい」をとても大切に、小竹浜の皆さんと交流していたことに感動いたしました。ありがとうございました。

（桶屋　良法記）

七度目のご縁を頂戴して

仙台駅から車で約一時間半。五年ぶりに訪れた街は、新しい家々が建ち並び、街を護るための10メートルを超える防護壁が張り巡らせてありました。穏やかな美しい海の景色を一望することは、難しい街並みでした。

小竹浜の皆さんはご高齢にもかかわらず、前日より時間をかけて郷土料理を準備し、私共の到着を、今か今かと待っていてくださいました。到着すると、早速、「ずんだ餅（枝豆のおはぎ）」・季節野菜たっぷりの「くずかけ汁」などを美味しく頂戴いたしました。

食後には、子どもから大人まで、誰もが親しむことのできる「写仏」を行いました。写仏するほとけ様と鉛筆・筆ペンなどを選び、『般若心経』をお唱えし、心を調えました。お唱えがおわると、一斉に写仏が始まりました。シーンとした空気の中には、写仏に向き合う皆様のさまざまな「おもい」が感じられました。「心が落ち着き、不思議な気持ちになりました。また、描きたいです」とお話しくださった方の言葉が心に残っております。

小竹浜の皆様が、この交流の場を楽しみにしていてくださったことが折々に感じられ、嬉しく思いました。そして、直接にお会いして、言葉を交わして、生の交流ということの大切さを確認した一日となりました。震災復興支援のひとつとしてはじまった訪問ですが、これからも、このご縁を大切にしてまいりたいと思います。

（松井 百合子記）



Inochi

“いのち”の根本的な教育への取り組み

公益財団法人
国際仏教興隆協会・事務総長
佐藤雅彦

New

新しい インド・ブダガヤでの 新プロジェクトについて



お釈迦さま成道の聖地・ブダガヤに日本仏教の宗派を超えて運営される寺院としては、日本で唯一の「日本寺」が開かれて45年が経過します。その間、医療を受けられない人々への診療所活動を行う「光明施療院」と未就学児への教育を提供する「菩提樹学園」は、車の両輪の如く日本寺の社会福祉活動の基軸として展開してきました。これらの事業をお支えいただいてきたのが、全日本仏教婦人連盟のご支援に他なりません。ここに改めて感謝の敬意を表したいと思います。

「諸行無常・ものみな移り変わる」とお釈迦さまが説かれた如く、事業がスタートしてから今日に至るまで、日本寺を取り巻く環境も大きな変化がありました。当時、画期的であった医療サービスを提供する光明施療院の事業は、社会福祉事業を行う団体の先駆けとして第一線を走ってきました。昨今は、資金力の豊富な諸外国の団体が同様の活動を行い、地域の福祉は進展してきました。しかし光明施療院は、半ばボランティアで診察を行ってきてくれた医師の死をきっかけに、継続がおぼつかなくなってきたのが実状です。確かにこのことは我々にとっては憂慮すべき事象ではありますが、視点を変えればブダガヤに暮らす人々には、医療という恩恵を受ける環境が良い方向に進展してきた現実を喜ぶべきことではないでしょうか。

施設運営の苦渋の状態を好転させるため、貴連盟要職の方々や、菩提樹学園の支援をいただいている日本仏教保育協会の方々と協議を重ね、新たなプロジェクトの立案と施行の準備を始めています。根本的な「いのち」の大切さを、保健医療の教育を介して行っていくというものです。

お釈迦さまはさまざまな布施の中でも、病むものを慈悲の心で治療したり看病する行いこそ尊いとする「看病福田」の教えを尊い菩薩行と示されました。これまで光明施療院が行ってきた診療所活動は、疾病や外傷に対する治療や手当という仏教が医療を介して行う菩薩行に他なりません。ある意味これは、事態が生じてから対処するという「対症療法」でもあります。そして前述の如く、時代とともに十分とはいえないが「需要に対する供給」が増えつつある現況です。

しかしながら「なぜ病気になるの?」「どうしたら病気を防げるの?」こうした健康を根本的に支える保健衛生に関わる教育は、いまだ草創期の現状です。例えば日本ならば予防接種を受けることで、未然に感染を防げる疾病も「予防接種」を受けるという知識のない人々には、極めて恐怖や邪悪なことを連想させることもあり、予防と医療を提供することもできず



に、いのちを失う人々がいます。識字率の低い人々には、啓蒙的なチラシや配布物も役に立ちません。救えるいのちが、「予防」という保健医療に対する知識の低さのために、やすやすと亡くなっていくいのちが多分にあるのです。

「救えるいのち」を大切に守るための、啓蒙的な、教育的なプログラムを用意し、菩提樹学園に在籍する未就学児、その父母、そして日本寺を取り巻く地域住民へと広げ展開していこうというものです。とはいえ「トイレの掃除は、身分制度の最も下層階級の者がすべきことだから、掃除をしない」等、インドならではの文化をもつ社会です。その社会に私たちの文化を尺度にした進め方を行ったなら、反発を招くに相違ありません。

根気のいる「啓蒙活動」が求められます。この予防を中心とした保健医療教育は「いのち」を大切に生きる道を説かれたお釈迦様の根本的な使命に合致するものと信じて、事業を進める必要があるのです。そしてこの事業の推進と成功こそ、お釈迦さまの仏恩に報いることと信じ願っています。

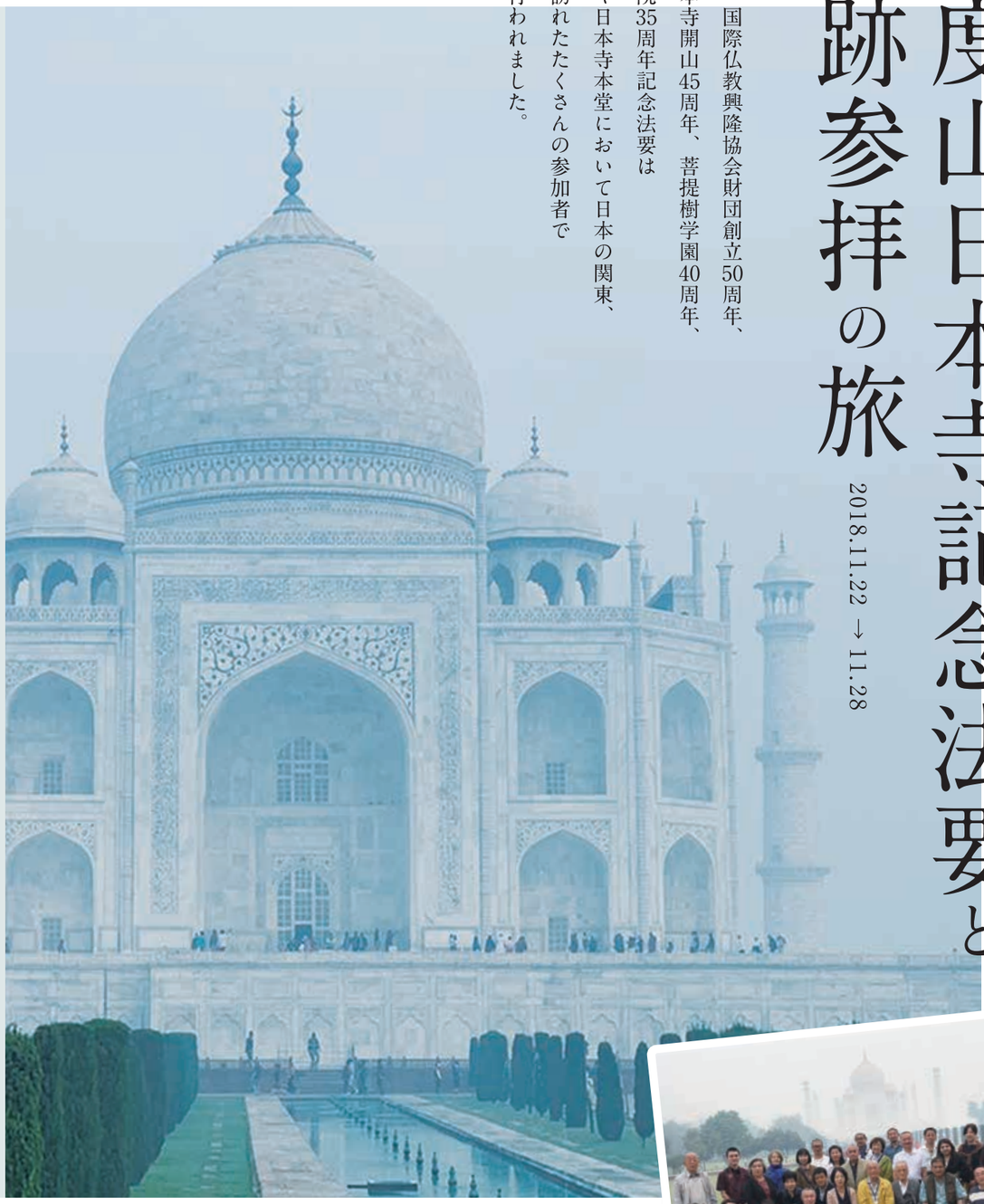
皆さんのおひとりおひとりのご支援こそが、かけがえのないお釈迦さまの教えの中に生かしていただいている「報恩行」と受けとめられ、今後ともあたたかなご支援をお願い申し上げます。

合掌

印度山日本寺記念法要と仏跡参拝の旅

2018.11.22 → 11.28

11月24日、国際仏教興隆協会財団創立50周年、印度山日本寺開山45周年、菩提樹学園40周年、光明施療院35周年記念法要はブッダガヤ日本寺本堂において日本の関東、関西から訪れたたくさんの参加者で賑やかに行われました。



タージマハルにて



記念法要

法要の始めに中村康雅理事長がこの財団法人設立のいきさつとその歴史を話されました。建設当時、純日本式鉄筋コンクリートの立派な本堂はどんなに現地の人々を驚かせたことでしょう。そして日本仏教保育協会によって建てられた無料の幼児教育施設、菩提樹学園と全日本仏教婦人連盟によって建てられた無料の医療施設、光明施療院はこの地域の人々にどれだけ役に立ってきたことでしょう。

上座仏教の僧侶の法要に続いて、ほら貝に先導された北河原公敬竺主を中心に日本人僧侶が本堂正面より入堂し、厳かに法要が行われました。法要後日仏保の高山久照師、全日仏婦東伏見具子会長の挨拶に続いて北河原竺主のお話があり、インド日本大使館平松賢司大使、祐天寺巌谷勝正住職の祝辞が読まれました。この記念法要において先達の功績のすばらしさを再認識するとともに、仏教を通じて日印友好関係の新しい明るい未来を築いて行かねばならないと感じました。

法要後、菩提樹学園の子ども達による歓迎会に続いて、皆様よりお預かりした写経を全日仏婦参加者で読経しながら宝筐印塔に納経しました。（日比野郁皓記）

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

11/24 菩提樹学園 アルバータ・ラビエ

子ども達は明るい色の服装で、とても華やかなエネルギーにあふれていました。ホールに座って緊張している様子を大人も静かに見守っていました。子ども達のダンスが始まりました。最初のグループは一番小さい子供たちで全員赤の伝統的なインドの服装でお化粧もきらきらと美しく、一生懸命に踊っていました。つぎは、男の子達のモダンな踊りで、その次の女の子達はインドの伝統的な踊りを見せてくれました。最後はシンデレラの劇です。子ども達は全員演じることを楽しんでいる様子でした。先生たちはやさしいまなざしで子ども達を見守ってました。

体は小さくやせていますが、生き生きとしたエネルギーを感じ、次に来るときは、インドの演劇を見たいと思いました。この子ども達がどんな本でどんな絵を見ているのか、興味がわきました。

子ども達から素晴らしい絵の
プレゼントをいただきました





菩提樹学園の
子ども達

11/22 バンコクからブダガヤへ

↓杉浦悟子

初めての海外旅行、インドだけは死ぬまでに絶対一度行きたいと思っていた夢が今叶いました。誘ってくれた友達（愛知県一宮市鋭正寺幼稚園の園長の祖父江霊完さん）は忙しくて休みが取れず、行けないと聞いた時も私に迷いはありませんでした。私一人で行っていい？と思わず聞いていました。

初日はタイのバンコク、マリオットホテルで優雅に過ごし、明日からのインドに備えて身心を休ませました。

2日目はガヤ空港からブダガヤ、スジャータホテルへ

夕方、大塔から悟られた菩提樹の木の元へ大勢の人々、お祈りのお経の声、インド、貧しさの尺度が分からない、到底私たちには想像できないであろう生活、又それが普通の生活……。

3日目は記念法要後、修行された前正覚山を、ずっと向こうに見ながら沐浴された尼蓮禅河をバスで渡り、スジャータの家の跡を通り、不思議な感慨でいっぱいになりました。

お釈迦様を身近に感じ、仏法にめぐりあう事ができたご縁に感謝いたします。



記念式典法要



記念写真

11/25 サルナート初転法輪

↓梨本三千代

ブダガヤを出発して8時間で（昼食含）にてベナレスに到着（この道程をお釈迦様は歩かれたのです）。空路であれば一っ飛びでしょうが、バスの時間はありがたいことに人々の村の生活を垣間見ることができました。お悟りののちお釈迦様が初めて説法された（初転法輪）サルナート。その遺跡群は広い空間の中にあり、中でもアショカ王により造られたダメーク塔は他を圧倒します。この一週間はお釈迦様と同じ大地に立ち、風の中にいることに大いなる感動と喜びを得た貴重な時間でした。

11/26 ガンジス河にて

↓遠賀令子

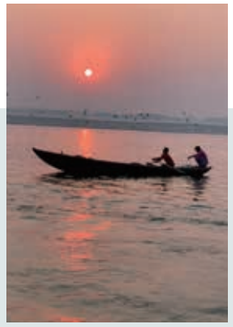
教科書や写真で見ていただけのガンジス河の夜明け前の船上に私は立っています！

河岸に沿って石造りの古い建物が立ち並び、河に直面している広い石の階段に黒山のように人々が集まっているのは異様な雰囲気の異国そのものでした。その群衆の前で一心に祈りながらご来光に向かって沐浴する姿を、不敬にも眺める事が出来たのは、まさしく生きている歴史を目の当たりにしている興奮と同様に深い畏敬の念を感じ、今回この旅行に参加出来た事を光栄に思っております。

INDIA



ガンジス河





車窓から

11/27 タージマハル・デリー

↓松井百合子

6日目、今回の旅の最後の見学地、「タージマハル」へ。

タージマハルは、インド北部のアグラにある、ムガール帝国第五代皇帝が最愛のお妃様を弔うために建てた霊廟です。インド・イスラム文化の代表的な建築物で、一九八三年にインドの世界遺産に登録されています。22年間（1632年～1653年）の歳月と約2万人の労働力をかけてつくられた総大理石の白亜の霊廟は、圧倒されてしまうほどに美しく荘厳でした。壁には、イスラムのアラベスク模様が優美に彫り込まれ、世界中から集めた28種類といわれる宝石や鉱石の数々が飾っていました。

その後、完成したばかりの高速道路を4時間走り、アグラからインドの首都デリーへ。大渋滞の中、車中より「インド門」（第1次世界大戦などで戦死したインド人兵士の慰霊碑）や官公庁街を眺めました。

参加者一同で街レストランにおいて解団式を行い、インド最後の食事を楽しみました。今回の旅の参加者最高齢の90歳の清野師は、印度山日本寺の落慶の折（1973年）にも訪印されているとのこと。その躍錫（やくしゃく）としたお姿とお気持ちに感銘を受けました。日本人の古き良き心を学ばせていただいた思いです。大きなけがや病気もなく、皆、元気に笑顔で帰国することができましたことに感謝したいと思います。



アグラ城



宝篋印塔

11/27 最終日

↓髙橋節子

今日はインドの最終日でした。午前中に世界遺産タージマハルへ。もやのかかったタージマハルも綺麗でした。ランチはレストランでターリーを頂き美味しかったです。バス移動でデリー市内へ。インド門、大統領館、国会議事堂を車窓観光。インド最後の夕食は中華料理。デリーの夜景を観ながら空港へ。いよいよ日本に向けて帰路の途に　。今回は感謝と感動の旅でした。

世界仏教徒連盟（WFB）大会

人道支援委員会報告
日比野郁皓

11月6日より9日、成田のマロウドインターナショナルホテルと曹洞宗大本山總持寺で開かれた世界仏教徒会議には、海外15ヵ国約300人の参加者が訪れました。日本を会場に行われたのは浅草で開催されてから10年ぶりのことですが、今回の大会は次にどの国であっても運営しやすいようにと予算や規模をずっとコンパクトにして企画されました。食事は全日程、朝食を除いてベジタリアン料理に統一のメニューにしたアイデアは素晴らしかったと思います。仏さまの慈悲の精神を実践し、その上ともおいしいと大変喜ばれたのです。

WFBには環境、女性、経済など11の委員会がありますが、私は6年前の韓国大会以来人道支援委員会の委員長をつとめさせていただいています。委員会ではWFBが行う自然災害への緊急支援の報告を行い、災害時の対策など各国からの代表の意見を述べていただき、話し合い、その内容を総会で報告するというのが私の仕事となります。少人数の委員会も参加者全員が出席する総会も通訳なしで行われますのでいろいろな国の方々の意見をとりまとめるのに間違いのないよう、毎回苦心します。

委員会ではロヒンギャ難民に全日仏が援助を行ったことについてのディスカッションがあり、同地域で仏教徒には援助の手を差し伸べないのかという発言もありましたが、苦難の中にある人々に信仰の違いを越えて行った人道支援に対し、多くの参加者から賞賛を受けました。



総会においてはインド日本寺の人道支援活動について、今回は女性と子供の識字率を上げ、病気や幼児労働から子供を守るための新しいプロジェクトを紹介しました。西日本豪雨被害報告では災害の起きた直後にWFBより全日仏に、支援資金が送金されたことに対し戸松事務総長も感謝の気持ちを表明しました。ネパール救援の会計報告は東海林師が行い、これからもネパール救援活動を続けることを約束し、ネパールから、WFBの人道支援に対し感謝状が贈られました。

最後に赤十字に籍を置くスリランカのマデュガル氏は「災害緊急時まず何をするのか」、バングラデシュのバルア氏は人道支援の「人道的とは何か」について、掘り下げたプレゼンテーションを行いました。豊かな内容の充実した人道支援委員会となりました。

静岡県仏教婦人会
六〇周年記念大会を開催して

実行委員長　関戸あけみ



平成三〇年一一月七日静岡グランシップ中ホール大地にご来賓の皆様をお招きし、会員の皆様とスタッフ一同を合わせ、総勢千三〇〇名近くのご参加をいただきました。ここに六〇周年記念大会を盛大に開催することが出来ましたことに安堵すると共に、皆様には深く感謝申し上げます。



大会は奏楽の調べに始まり、静岡市静岡仏教会のご寺院様による法要が荘厳にとり行われました。その後の浄土宗静岡教区雅楽会の皆様による公演では、伝統的な楽器の紹介から親しみのある曲目の演奏もなされ、その間は極楽浄土の荘厳を伝えるとされる雅楽の音色を体感し、心身が癒され心地よい安らぎの時間となりました。

式典ではご来賓の皆様の中より、静岡県仏教会会長様、静岡市静岡仏教会会長様、全日本仏教婦人連盟理事長様のご祝辞を頂戴し、会場の皆様と共に感謝の思いを一様にしました。

講演は西川ヘレン氏をお招きし「大家族・支え愛・見守り愛・励まし愛」の演題で、ご自身の幼少期の仏様にまつわるお話から、自身のお母様や西川家のご両親の多重介護のご苦労話を慈愛の言葉に笑いを添えて伝えていただきました。また三世帯で暮らす西川家では仏壇前での朝のお勤めにお孫さんたちも共に手を合わせお題目を唱えるとの話には一様に関心させられました。更には本日の講演の始めと終わりにも舞台に祀られたお釈迦様に向かい、お念珠を持ち深々と丁寧に合掌されたヘレン氏のお姿がとても有難く美しかったことが印象に残っております。

ロビーでは大会テーマの「つなぐ」のもとにボランティア活動を行い、広く皆さまに声を掛けさせて頂きました。「フードバンク」に差し上げるお米は一人一人が一合ずつを持ち寄り計二二五kgのお米が集まりました。更にこの活動に共感してくださいました西川ヘレン氏の事務所からは六〇kgのお米が寄贈されました。また被災地支援の物品販売・シャンティ国際ボランティア会のクラフト販売と合わせて二〇〇万円の売上となり、その他募金活動は六〇万円を超える金額が集まりました。これには六〇周年記念大会への会員相互の想いの深さを感じ、皆様のご協力に改めて感謝しお礼申し上げます。

十年の歩みを綴った記念誌は、表紙のお釈迦様の御手から始まる五色の糸のご縁を、未来へつなげて行きたいという想いで作成致しました。

最後に全日本仏教婦人連盟様をはじめ大会の開催にご支援ご協力頂きました多くの皆様に深く感謝し、これからの静岡県仏教婦人会の活動が末永く続くことをご祈念申し上げます。

合掌

真備より支援のお礼のお便りが届きました♥

大変お世話になっております。
11月6、7日の参観日にミニ運動会を開きました。
他の保育園に通っていた子ども達も帰ってきての初めての大きな行事でした。おうちの方も子ども達もとても楽しんでいました。
また平均台や玉入れ、運動器具などを買わせて頂き子ども達もとても喜んで遊んでいます。本当にありがとうございました。その時の写真をお送りいたします。



真備かなりや保育園
園長　狩山 亜由美

謹賀新年

平成三十一年　亥

公益財団法人
全日本仏教会
WFB（世界仏教徒連盟）日本センター
会長　江川辰三
理事長　釜田隆文
〒一〇五―〇〇一一　東京都港区芝公園四―七―四
☎〇三―三四三二―九二七五
URL: http://www.jbf.ne.jp
E-mail: info@jbf.ne.jp

曹洞宗宗務庁
管長　江川辰三
宗務総長　鬼生田俊英　人事部長　成田隆真
参議　羽仁素道　教学部長　渡部卓史
参議　佐瀬道淳　教化部長　喜美候部謙史
総務部長　橋本壽幸　出版部長　結城俊道
伝道部長　中村見自　財政部長　服部秀世
〒一〇五―八六四四　東京都港区芝二―五―一二
☎〇三―三四五四―五四一一
URL: https://www.sotozen-net.or.jp

浄土宗
宗務総長　豊岡鐐尓
〒六〇五―〇〇六二　京都市東山区林下町四〇〇―八
☎〇七五―五二五―二二〇〇代

日蓮宗宗務院
宗務総長　中川法政
〒一四六―八五四四　東京都大田区池上一―三一―一五
☎〇三―三七五一―七一八一
FAX〇三―三七五一―七一八六
URL: http://www.nichiren.or.jp

天台宗
宗務総長　杜多道雄
〒五二〇―〇一一三　滋賀県大津市坂本四―六―二
☎〇七七―五七九―〇〇二二

真言宗智山派宗務庁
宗務総長　芙蓉良英

〒六〇五―〇九五一　京都市東山区東大路通リ七条下ル東瓦町九六四
☎〇七五―五四一―五三六一

真言宗豊山派
宗務総長　星野英紀
〒一一二―〇〇一二　東京都文京区大塚五―四〇―八
☎〇三―三九四五―〇六三九

東京都仏教連合会
会長　菅野日彰
理事長　新美昌道
事務局長　新倉典生
〒一一三―〇八五一　東京都足立区梅田一―二六―一〇　善立寺内
☎〇三―三八八六―一三六七

一般財団法人　京都仏教会
理事長　有馬頼底
事務局長　長沢香静
〒六〇二―〇八九八　京都市上京区今出川通烏丸東入相國寺門前町六三六―一
☎〇七五―二二三―六九七五代

愛知県仏教会
会長　舎人経昭
【事務局】〒四六八―〇〇五一　愛知県名古屋市天白区植田一―三二一
☎〇五二―八九二―九一九〇

一般財団法人　埼玉県佛教会
会長　倉持秀裕
〒三三〇―〇〇六三　さいたま市浦和区高砂四―一三―一八
☎〇四八―八六一―二一三八

大阪府佛教会
会長　加藤定厚
【事務局】〒五五二―〇〇二一　大阪市港区築港一―一三―三　釋迦院内
☎〇六―六五七一―五七一〇

＜順不同＞

謹賀新年

平成三十一年　亥

公益財団法人
全日本仏教尼僧法団
総裁　鷹司誓玉　理事長　笹川悦導
副総裁　六條照瑞　副理事長　沢田教英
副総裁　日野西光尊
〒一六〇―〇〇一五　東京都新宿区大京町三一―二六　慈母会館
☎〇三―三三五八―八一六八

全日本仏教青年会
理事長　倉島隆行
【事務局】〒九六一―八〇〇一　福島県西白河郡西郷村羽太字狸屋敷一六四　大龍寺内
☎〇二四八―二五―三五〇七

公益財団法人　仏教伝道協会
会長　木村清孝　理事　野村邦武
理事長　桂紹隆　同　沼田恵明
常務理事　青木晴美　同　生田忠士
理事　上山大峻　監事　中野東禅
同　門脇邦彦　同　松村智司
〒一〇八―〇〇一四　東京都港区芝四―三一―一四
☎〇三―三四五五―五八五一
URL:http://http://www.bdk.or.jp

公益社団法人　日本仏教保育協会
理事長　緑谷一雄
〒一〇五―〇〇一一　東京都港区芝公園四―七―四
☎〇三―三四三二―七四七五

子ども支援ネットワーク
公益財団法人
全国青少年教化協議会
〒一〇四―〇〇四五　東京都中央区築地三―七―五　築地AIビル五F
☎〇三―三五四一―六七二五

公益財団法人
全国青少年教化協議会
専務理事　齋藤昭俊
〒三二八―〇二〇五　栃木市鍋山町四七　宝蓮寺
☎〇二八二―三一―〇四五一

公益社団法人
シャンティ国際ボランティア会
会長　若林恭英
〒一六〇―〇〇一五　東京都新宿区大京町三一　慈母会館二・三階
☎〇三―五三六〇―一二三三

一般社団法人　仏教情報センター
理事長　長谷川岱潤
〒一一三―〇〇三三　東京都文京区本郷一―四―六―二〇二
☎〇三―三八一三―六五七七
FAX〇三―三八一三―六七九四

公益財団法人　国際仏教興隆協会
日本寺総主　北河原公敬
理事長　中村康雅
事務総長　佐藤雅彦
役員　同
〒一五三―〇〇六一　東京都目黒区中目黒五―一四―五三
☎〇三―三七一一―七六〇八
FAX〇三―三七一一―七六〇三
E-mail: jimukyoku@ibbaj.p

世界連邦日本宗教委員会
会長　田中恆清
〒六一四―八五八八　京都府八幡市八幡高坊三〇　石清水八幡宮内
☎〇七五―九八一―三〇〇一

日本仏教鑽仰会
理事長　中山秀成
〒一七四―〇〇四一　東京都板橋区舟渡四―一五―一
FAX〇三―三九六七―三一八八

被災地NGO協働センター顧問
CODE海外災害援助市民センター理事
村井雅清
〒六五二―〇八〇一　兵庫県神戸市兵庫区中道通二―一―一〇
☎〇七八―五七四―〇七〇一
FAX〇七八―五七四―〇七〇二

＜順不同＞

謹賀新年

平成三十一年　亥

本山修験宗総本山　聖護院門跡
門主　宮城泰年
〒六〇六―八三二四
京都市左京区聖護院中町一五
☎〇七五―七七一―一八八〇

天台宗　妙法院門跡
門主　杉谷義純
〒六〇五―〇九三三　京都市東山区東山七条上ル
☎〇七五―五六一―〇四六七
FAX〇七五―五六一―六六九八

浄土宗総本山　知恩院門跡
浄土門主　伊藤唯眞
〒六〇五―八六八六
京都市東山区林下町四〇〇　総本山知恩院内
☎〇七五―五三一―二一一一

天台宗　三千院門跡
門主　堀澤祖門
〒六〇一―一二四二
京都市左京区大原来迎院町五四〇
☎〇七五―七四四―二五三一
FAX〇七五―七四四―二四八〇

天台宗　毘沙門堂門跡
門主　叡南覚範
〒六〇七―八〇〇三
京都市山科区安朱稲荷山町一八
☎〇七五―五八一―〇三二八

真宗木辺派　本山錦織寺
門主　木邊圓慈
〒五二〇―二四三一
滋賀県野洲市木部八二六
☎〇七七―五八九―二六四八

日光山　輪王寺門跡
門主　小暮道樹
〒三二一―一四九四
栃木県日光市山内二三〇〇
☎〇二八八―五四―〇五三一

浄土宗大本山　善光寺大本願
法主　鷹司誓玉
〒三八〇―〇八五一　長野市元善町五〇〇
☎〇二六―二三四―〇一八八
FAX〇二六―二三四―〇一八六

浄土真宗東本願寺派
本山　東本願寺
法主　大谷光見
〒一一一―〇〇三五
東京都台東区西浅草一―五―五
☎〇三―三八四三―九五一一

大本山　増上寺
〒一〇五―〇〇一一
東京都港区芝公園四―七―三五
☎〇三―三四三三―一四三一

法興山　中宮寺
門跡　日野西光尊
〒六三六―〇一一一
奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺北一―一―二
☎〇七四五―七五―二一〇六
FAX〇七四五―四四―九二八五

聖観音宗　浅草寺
貫首　田中昭徳
〒一一一―〇〇三二
東京都台東区浅草二―三―一
☎〇三―三八四二―〇一八一代

＜順不同＞

謹賀新年

平成三十一年　亥

曹洞宗大本山　永平寺
貫首　福山諦法
〒九一〇―一二九四
福井県吉田郡永平寺町志比
☎〇七七六―六三―三一〇二

曹洞宗大本山　總持寺
貫首　江川辰三
〒二三〇―〇〇六三
神奈川県横浜市鶴見区鶴見二―一―一
☎〇四五―五八一―六〇二二

真言宗智山派
大本山　川崎大師平間寺
貫首　藤田隆乘
〒二一〇―八五二一
神奈川県川崎市川崎区大師町四―四八
☎〇四四―二六六―三四二〇

真言宗智山派
大本山　成田山新勝寺
貫首　橋本照稔
〒二八六―〇〇二三
千葉県成田市成田一番地
☎〇四七六―二二―二一一一

念法眞教教団
総本山　金剛寺
〒五三八―〇〇五四
大阪市鶴見区緑三丁目四番二二号

善光寺本坊大勧進
貫主　孝道山本仏殿
〒二二一―〇〇六四
神奈川県横浜市神奈川区鳥越三八番地
☎〇四五―四三二―一二〇一代

大本山　護國寺
貫主　瀧口宥誠
〒二八〇―八五〇一
長野県長野市元善町四九二
☎〇二六―二三四―〇〇〇一

京都　音羽山清水寺
貫主　森清範
〒六〇五―〇八六二
京都市東山区清水一丁目二九四
☎〇七五―五五一―一二三四

日蓮宗　大本山池上本門寺
貫首　菅野日彰
執事長　金子元彦
〒一四六―八五五六　東京都大田区池上一―一―一
☎〇三―三七五二―二三三一
FAX〇三―三七五二―三三五〇

真言宗須磨寺派
管長　小池弘三
〒六五四―〇〇七一
兵庫県神戸市須磨区須磨寺町四―六―八
☎〇七八―七三二―〇四一六

大本山　成田山新勝寺
貫首　岡本永司
〒一一二―〇〇一二
東京都文京区大塚五丁目四〇番一号
大本山　護國寺
☎〇三―三九四一―〇七六四代

真言宗御室派
菅長　瀬川大秀
宗務総長　吉田正裕
〒六一六―八〇九二
京都市右京区御室大内三三
☎〇七五―四六一―一一五五
FAX〇七五―四六四―四〇七〇

＜順不同＞

謹賀新年

平成三十一年　亥

真言宗智山派
大本山　高尾山薬王院
貫首　大山隆玄
〒一九三―八六八六
東京都八王子市高尾町二一七七
☎〇四二―六六一―一一一五

真言宗智山派別格本山
高幡不動尊金剛寺
貫主　杉田純一
〒一九一―〇〇三一
東京都日野市高幡七三三一
☎〇四二―五九一―〇〇三一

真言宗中山寺派
大本山　中山寺
〒六六五―八五八八
兵庫県宝塚市中山寺二丁目一一―一
☎〇七九七―八七―〇〇二四

天台真盛宗
総本山　西教寺
〒五二〇―〇一一三
滋賀県大津市坂本五丁目一三一一
☎〇七七―五七八―〇〇一三代

日蓮宗本山　大坊本行寺
貫首　中野日演
〒一四六―〇〇八二
東京都大田区池上二一一〇―五
☎〇三―三七五二―〇一五五
FAX〇三―三七五三―〇〇一一

安国寺専門僧堂
堂長　高階玉光
〒八一〇―〇〇〇一
福岡県福岡市中央区天神四―十四―四
☎〇九二―四七一―二七七〇
FAX〇九二―四七一―二七七九

宗教法人　傳通院
貫主　麻生諦善
〒一一二―〇〇〇二
東京都文京区小石川三一一四一六
☎〇三―三八一四―三七〇一

秋葉総本殿可睡齋
齋主　佐瀬道淳
〒四三七―〇〇六一
静岡県袋井市久能一九一五―一
☎〇五三八―四二―二一二二
FAX〇五三八―四二―一四二九

西新井大師　總持寺
貫首　濱野堅眞
〒一二三―〇八四一
東京都足立区西新井一―一五―一
☎〇三―三八九〇―一三四五

聖観音宗　浅草寺
執事長　守山雄順
〒一一一―〇〇三一
東京都台東区浅草二―三―一
☎〇三―三八四二―〇一八一代

法華宗（陣門流）
宗務総長　西山英仁
〒一七〇―〇〇〇二
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
☎〇三―三九一八―七二九〇
FAX〇三―三五七六―〇一二一

真言宗室生寺派　龍光寺
真言宗室生寺派
宗務総長　下村聖登
〒一九一―〇〇三二
東京都杉並区和泉三―八―三九
☎〇三―三三二一―一二九六
FAX〇三―三三二一―一二九九八

＜順不同＞

謹賀新年

平成三十一年　亥

真言宗智山派　上品蓮台寺
住職　髙井隆成
〒六〇三―八二〇三
京都市北区紫野十二坊町三三―一
☎〇七五―四六一―二三三九

日蓮宗　妙安寺
住職　市川智康
〒一四四―〇〇五二
東京都大田区蒲田四―一八―一五
☎〇三―三七三八―五二三六

別格本山　大須観音寶生院
貫主　岡部快圓
〒四六〇―〇〇一一
名古屋市中区大須二―二一―四七
☎〇五二―二三一―六五二五
FAX〇五二―二三一―九三三三

天台宗　深大寺
住職　張堂完俊
〒一八二―〇〇一七
東京都調布市深大寺元町五―一五―一
☎〇四二―四八六―五五一一

真言宗　御室派　龍華寺
住職　和田大雅
〒二三六―〇〇二八
横浜市金沢区洲崎町九―三二
☎〇四五―七〇一―六七〇五

別格本山　大須観音寶生院
院主　山田一眞
〒一九二―〇九〇二
東京都八王子市上野町三九―二
☎〇四二―六二二―九五四〇

浄土宗　梅窓院
前住職　正本乘光
〒一三五―〇〇二二
東京都江東区三好一―六―三
☎〇三―三六四一―五八四八

浄土宗　長専院
住職　髙山久照
〒一七九―〇〇七四
東京都練馬区春日町三―一―一二
☎〇三―三九九八―一一六二

神田寺　真理舎
住職　友松浩志
〒一一〇―〇〇二二
東京都千代田外神田三―四―一〇
☎〇三―三二五一―八六八三

浄土宗　梅窓院
住職　中島真成
〒一〇七―〇〇六二
東京都港区南青山二―一六―三八
☎〇三―三四〇四―八四四七
URL: http://www.baisounor.jp/

真言宗豊山派　寿福寺
住職　髙山久照
〒一七九―〇〇七四
東京都練馬区春日町三―一―一二
☎〇三―三九九八―一一六二

天台宗　三徳山三佛寺
中国観音霊場会会長
住職　米田良中
〒六八二―〇一三三
鳥取県東伯郡三朝町三徳一〇一〇
☎〇八五八―四三―二六六六

真言宗智山派　慈眼寺
徳川将軍家日光社参御昼食所
住職　上野法忍
〒三二九―〇四一四
栃木県下野市小金井一―二六―二
☎〇二八五―四四―三二一六

＜順不同＞

謹賀新年

平成三十一年　亥

高野山真言宗　真成院
住職　織田隆深
〒一六〇―〇〇一一
東京都新宿区若葉二―七―八
☎〇三―三三五一―七二八一

天台宗　慧日山寶泉寺
住職　濱田智純
〒一五〇―〇〇一一
東京都渋谷区東二―六―十六
☎〇三―三四〇七―三五九一

天台宗　善養寺
住職　舘克亮
〒一七〇―〇〇〇一
東京都豊島区西巣鴨四―八―二五
☎〇三―三九一五―〇〇一五

真言宗智山派　圓乘院
住職　小峰正如
〒二〇七―〇〇〇三
東京都東大和市狭山三―一三五四
☎〇四二―五六一―三〇四四
fax　〇四二―五六一―三〇七四

日蓮宗　妙高寺
住職　吉橋勝寛
〒一五七―〇〇六一
東京都世田谷区北烏山六―二三―一
☎〇三―三三〇〇―〇〇一二
FAX〇三―三三〇八―三三三八

天台宗　護国山天王寺
住職　末廣照純
〒一一〇―〇〇〇一
東京都台東区谷中七―一四―八
☎〇三―三八二一―四四七四

深沢綜合法律事務所
代表弁護士　柴田龍太郎
〒一七〇―六〇二二
東京都豊島区東池袋三―一―一
サンシャイン60　二二階二二号
☎〇三―三九八三―二二二六

妙智會教団
〒一五一―〇〇五三
東京都渋谷区代々木三―三―三
☎〇三―三三七〇―五四〇三
FAX〇三―三三七〇―五三四九

株式会社中山石渠

株式会社大陸旅遊
取締役営業部長　永田政夫
〒一六〇―〇〇二三
東京都新宿区西新宿五―五―六
☎〇三―三三七六―二五一一

代表取締役　工藤忠志
〒一六四―〇〇一一
東京都中野区中央二―二二―一三
フジビル二階
☎〇三―三三六四―二五五五

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟　監事
公認会計士　木村匡成
〒一五一―〇〇五一
東京都渋谷区千駄ヶ谷四―五―一〇
☎〇三―五七七二―〇六七七

長谷川法律事務所
弁護士　長谷川正
弁護士　大木浩
弁護士　秋山卓生
弁護士　大島経則
税理士　松近英義彦
〒160―0022　東京都新宿区新宿一―一九―三　エルスタンザ四階
☎〇三―三三五二―四五四五
FAX〇三―三三五二―八七二五

＜順不同＞

謹賀新年

平成三十一年　亥

株式会社経営総合研究所
代表取締役　荒川昌夫
〒一四一―〇〇二二
東京都品川区上大崎二―一五―一九
MG目黒駅前二階
〇三―四五四〇―一一六三

シーエスジャパン(株)
寺社仏閣のライトアップならお任せください
照明コンサルト
代表取締役　栗田靖之
〒一一五―〇〇五三
東京都北区赤羽台二―三―一―一〇〇七
☎〇九〇―三九一四―九八八四

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
会長　東伏見具子
〒六〇五―〇〇三五
京都市東山区粟田口三条坊町
六九―一　青蓮院門跡
☎〇七五―五六一―二三四五

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
副会長　加用稔子
〒七三〇―〇〇四一
広島県広島市中区小町二―一
☎〇八二―二四一―七四七二

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
名誉顧問　六條照瑞
〒五八二―〇〇一二
大阪府藤井寺市道明寺町一―一四
☎〇七二九―五五―〇一三三

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
相談役　岡野鄰子
〒二一一―〇〇六四
神奈川県横浜市神奈川区鳥越三八番地
☎〇四五―四三三―一二〇一代

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
顧問　大賀美都子
〒三〇〇―一二二一
茨城県牛久市牛久町三三二一―四
☎〇二九八―七三―三九八七

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
顧問　林惠智子
〒三五九―一一一六
埼玉県所沢市東町二四―一
☎〇四―二九二九―五八七六

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
参与　鈴木トヨ子
〒一六八―〇〇七四
東京都杉並区上高井戸一―二七―一五
☎〇三―三三〇二―五八六七

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
理事長　末廣久美
〒一一〇―〇〇〇一
東京都台東区谷中七―一四―八
☎〇三―三八二一―四四七四

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
副理事長　篠田節子
〒四二一―三三〇五
静岡県富士市岩渕三二八
☎〇五四五―八一―〇二四六

真言宗豊山派仏教婦人会会長
公益社団法人全日本仏教婦人連盟
常務理事　岩脇孝子
〒一一四―〇〇一四　東覚寺
東京都北区田端二―七―三
☎〇三―三八二一―一〇三一

＜順不同＞

謹賀新年

平成三十一年　亥

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
常務理事　本多端子
〒一一〇―〇〇一五
東京都台東区東上野六―一八―七
☎〇三―三八四四―四三八九

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
常務理事　松井百合子
〒二七二―〇一四四
千葉県市川市新井一―九―一
☎〇四七―三五七―八三一九
FAX〇四七―三五七―八三九九

御瀧不動尊　金蔵寺
公益社団法人全日本仏教婦人連盟
常務理事　梨本三千代
〒二七三―〇八五三
千葉県船橋市金杉六―二五―一
☎〇四七―四四八―二八三三

真言宗智山派　宝光院
公益社団法人全日本仏教婦人連盟
常務理事　大橋百合子
〒三二九―〇五二四
栃木県河内郡上三川町多功一八八八
☎〇二八五―五三―八八〇一

学校法人 梅ヶ原幼稚園副園長
公益社団法人全日本仏教婦人連盟
理事　花岡真理子
〒三三三―〇八〇七
栃木県小山市城東五―一一―二〇
☎〇二八五―二五―三三三三

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
理事　長尾節子
〒四二五―〇〇五二
静岡県焼津市田尻三三二
☎〇五四―六二四―三六六四

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
理事　日比野郁皓
〒一一一―〇〇五一
東京都台東区蔵前三―三―九
☎〇三―三八五一―四七二九
FAX〇三―三八五一―九七七〇

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
理事　桶屋良法
〒三五一―〇〇三三
埼玉県朝霞市浜崎一二三一一
☎〇四八―四七六―一五五二
FAX〇四八―四七六―一五五三

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
理事　小峰みな子
〒二〇七―〇〇〇三
東京都東大和市狭山三―一三五四
☎〇四二―五六一―三〇四四
fax　〇四二―五六一―三〇七四

真言宗智山派　圓乘院
公益社団法人全日本仏教婦人連盟
理事　丸山弘子
〒一六一―〇〇三三
東京都新宿区下落合三―一〇―一一
☎〇三―三九五三―九四一五

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
理事　村主みや子
〒六六五―〇八六一 中山寺総持院
兵庫県宝塚市中山寺二―一一―一
☎〇七九七―八一―〇〇六五

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
理事　御嶽由美子
〒三三五―〇〇二一
埼玉県戸田市新曽一七九一
☎〇四八―四四一―四二一七

＜順不同＞

謹賀新年

平成三十一年　亥

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
監事　佐々木公子
〒四一一―〇〇三五
静岡県三島市大宮町一―八一一五
☎〇五五―九七五―二五七三

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
監事　湯浅正江
〒二八六―〇〇二一
千葉県成田市土屋八
☎〇四七六―二二―一三四一

静岡県仏教婦人会
会長　松永郁代
常任理事　一同
〒四二一―三二〇三
静岡県静岡市清水区蒲原二―一二―一〇
☎〇五四―三八五―二九九一

International Ladies Association of Buddhism (ILAB)
10th anniversary
国際仏教婦人会
横浜市神奈川区鳥越３８
孝道山本仏殿
http://ilab web.org/
info_ilabuddhism@yahoo.co.jp

福岡県仏教連合会女性の会
会長　外松太恵子
〒八〇一―〇八七三
福岡県北九州市門司区東門司二―一一―九
☎〇九三―三二二―二二一七

天台宗寺庭婦人連合会顧問
公益社団法人全日本仏教婦人連盟
維持会員　米田陽子
〒六八二―〇一三三
鳥取県東伯郡三朝町三徳一〇一〇
☎〇八五八―四三―二六八六

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
維持会員　平林宣子
〒一一三―〇〇五二
東京都江戸川区東小岩二―二―四
☎〇三―三六七二―四九三五

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
維持会員　安井豊子
〒四一四―〇〇四一
静岡県伊東市芝町九―一
☎〇五五七―三七―五五九一

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
維持会員　小川阿希美
〒四二五―〇〇七二
静岡県焼津市大住四八四一
☎〇五四―六二七―〇九二〇
FAX〇五四―六二七―〇九七一

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
維持会員　後藤陽子
〒三二六―〇八二一
埼玉県深谷市田谷三〇八
☎〇四八―五七一―〇八四四

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
維持会員　遠賀令子
〒一四〇―〇〇一五
東京都品川区西大井五―二一―二五
☎〇三―三七七一―四八一六

無憂樹の会
〒四二〇―〇〇一一
静岡県静岡市葵区
安西一―一〇〇一　瑞光寺内
☎〇五四―二七一―一七二一

＜順不同＞

仏婦NEWS抄

私たちの
日々のあゆみ
2016年10月～12月

10月 October

1日　「沙羅の樹」10号発行
4日　第52回仏教伝道文化賞贈呈式（港区・仏教伝道センタービル）
10日　第65回全日本仏教婦人連盟大会（台東区・東天紅上野店）
14日　中宮寺門跡日野西光尊上人米寿の祝い（シェラトン都ホテル大阪）
17日　第13回東日本被災地訪問（宮城県・石巻市）
・高幡不動尊金剛寺貫主杉田純一猊下晋山祝賀会（新宿区・京王プラザ）
23日　（公財）全日本仏教会第2回花まつりポスター及び絵はがきの新デザイン選定審査会（明照会館）
31日　第17回理事会（天王寺）

11月 November

7日　静岡県仏教婦人会60周年記念大会（静岡グランシップ大地）
9日　第29回WFB世界仏教徒会議日本大会世界平和祈願法要・シンポジウム（大本山總持寺）
10日　全日本仏教青年会全国大会・仏教音楽祭（大本山總持寺）
19日　「全佛婦」編集打合せ（事務局）
22日～28日　印度山日本寺記念法要とタージマハルの旅（インド）
28日　浄土真宗東本願寺派結成30周年記念祝賀会（浅草ビューホテル）
30日　天台真盛宗管長武田圓寵猊下晋山式ならびに祝賀会（滋賀県総本山西教寺本堂・びわ湖大津プリンスホテル）
・日印文化交流ネットワーク総会・1周年記念懇親会（千代田区・学士会館）

12月 December

3日　WCRP女性部会いのちに関するワークショップ：アンガーマネジメント（天王寺）
10日　第30回成道会の集い（有楽町朝日ホール）
11日　（公財）全日本仏教会第1回人権問題連絡協議会（築地本願寺・第二伝道会館）
19日　第114回文化講座・第4回運営委員会（天王寺）
26日　「全佛婦」発送
28日　仕事納め

事務局だより

全日仏婦事業に多くの方々よりご協力いただきありがとうございます。それぞれの事業に活用させていただきますので、どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。
（順不同・敬称略）

▼平成30年新入会会員紹介
【維持会員】雲井由美子　大野直子
▼福祉事業にご協力の方々
故稲山霊芳　小峰立丸
日比野郁皓　末廣久美
▼タオル運動にご協力の方々
村田寛子　臼倉実津代　田中由実
長澤弘志
▼里親運動にご協力の方々
岩脇孝子　末廣久美
▼写経運動にご協力の方々
【宝光院扱い】
大橋百合子　田中美恵子
上野雪子　栃澤元子　猪瀬三枝子
大橋聡衣　浜野福貴子　山口ちい
山口祐里枝
【事務局扱い】
末廣久美　横山俊子　中村幸子
山口美和　髙﨑悦子　岩脇孝子
海老名初江　村上和之　髙橋節子
堂井良子　本多端子　梨本三千代
中島美世子　飯島恵美子
村松慶光　武藤しげみ
▼その他
生地　小梶洋子

ご冥福をお祈り申し上げます。

松山健二氏
（賛助会員）
平成30年9月10日

岸 春江姉
（元副理事長）
平成30年11月16日

へえ！そうなんだ　生活の中の仏教用語

韋駄天【いだてん】

道路や公園でジョギングをしている人を、最近よく見かける。マラソン大会も、各地で盛んに開かれているようだ。なかには、一万人を越える人が参加して、大いに盛り上がっているところもある。老若男女がそれぞれのペースで走ればよいのであるから、誰でも参加出来るし、服装にも費用がかからない。おそらく、美容と健康のために走るのであろうが、走ることは本当に健康によいのであろうか。

先日テレビを見ていたら、「健康のために走るのをお止めなさい」と説いている大学病院の先生がいた。説くところは、古代の人はやたらと走らなかったという。走るときは、動物を捕らえるときと動物に追いかけられたとき、このときはいうならば異常な状態である。正常なときに、好き好んで自分を異常な状態におくことはないではないかという意見であった。大部分の人は、運動をしないよりした方がよいという意見であろう。たぶんそれは正しいと思うが、しかし運動選手で長寿の人というのはあまり聞かない。日本人の百歳以上の長寿者のなかに、どのくらい運動をしていた人がいるのか、興味のあるところである。

ところで、昔から足の速い人を韋駄天といった。また、その走りかたを韋駄天走りともいった。韋駄天は、もともとヒンドゥー教の神であるスカンダのことである。音写語では「私建陀」と書くが、初めの「私」がとれて二字目の「建」が韋と誤記された。「天」は仏教以外から入った神は天部に属することから、それにしたがって韋駄天となった。そして、増長天の八大将軍の一人となった。この韋駄天は迅速な足をもっていた。捷疾鬼（しょうしつき）という大変俊足の鬼が、仏舎利（お釈迦さまの骨）をもって逃げたとき、これを追いかけて取り返してきたという伝説がある。ともかく速い。

インドでは、盗賊の守護神になっているという。韋駄天も有難迷惑と思ったことであろう。

畫間玄明著『生活のなかの仏教語』
(1995年3月、すずき出版刊)より

御礼のお手紙

前略　いつも会報誌をお送りいただきありがとうございます。皆様のご活躍にいつも感心し、いつか私もお役に立てることがあればと思っております。

本日は、当寺の責任役員の奥様である臼倉実津代様より一本のタオル運動にご協力頂きタオルを送らせていただきました。以前にもタオル運動をさせていただいた折に会報誌をいただいたことをとても喜んでおられました。

また、他に協力できることがあればと、申されていらっしゃいました。何かあるようでしたらお教え下さい。年末近くになるとお忙しくなることと思います。くれぐれもお身体に気を付けてご活躍ください。



真言宗豊山派十念寺
田中由実

information

新年修正会

【日　時】平成31年2月13日（水）
午前11時
【会　場】上野精養軒
東京都台東区上野公園
4－58

第115回文化講座

【日　時】2月20日（水）午後1時
【会　場】天王寺上善堂（東京都台東区谷中7-14-8
☎03-3821-4474）
【講　師】三浦明利師(浄土真宗本願寺派光明寺住職・シンガーソングライター・作家)

仏教で大切にされている心を盛り込み作詞・作曲・演奏活動に取り組んでいます。

僧侶としてまた新しい女性の生き方として注目され、新聞、テレビなどでも取り上げられています。

音楽法話「いのちともしび」

【参加費】500円